

WORLD PRESS PHOTO 13



世界
報道
写真展
2013

声なき声、知られざる事実、新たな側面 2012年とはどんな年だったのか

「世界報道写真展」は 1955年にオランダのアムステルダムで、世界報道写真財団が発足したことにより、翌年から始まったドキュメンタリー、報道写真の展覧会です。毎年、1月から2月にかけて前年に撮影された写真を対象にした「世界報道写真コンテスト」が開かれ、国際審査員団によって入賞作品が選ばれます。十数人から成る審査員団は毎年メンバーを替えて、審査の中立性を保つ努力がなされています。今年の「第56回 世界報道写真コンテスト」には、**124の国と地域、5,666人**のプロの写真家から、合計**10万3,481点**の作品が応募されました。1年を通じて、世界の約100会場で開かれる本展は、約200万人が会場に足を運ぶ**世界最大規模**の写真展です。

32の国と地域から54人が今年、コンテストでの入賞を果たしました。コンテストの部門は全部で9つ。さらにそれぞれが「単写真(写真1枚)」と「組写真(複数の写真で構成)」に分かれています。入賞者は部門毎に各1位から3位までのいずれかに該当します。入賞者の中から、その年の最も優れた写真1点に対しては「世界報道写真大賞」が贈られます。今年の大賞受賞者はスウェーデン人の写真家ポール・ハンセン氏に決まりました。パレスチナのガザ地区でイスラエルのミサイル攻撃によって死亡した子どもたちを、絵画的な光の中で葬儀場所へと運ぶ男性たちの表情には深い悲しみと怒りが凝縮され、忘れがたいイメージを見る物に植え付けます。審査員の1人は「大人たちの怒りや悲しみと子どもたちの純真無垢が醸すコントラストにより、写真が強さを備えている」と評しています。

東日本大震災から1年後の2012年3月、オーストラリアの写真家ダニエル・ベレフラク氏は岩手県陸前高田市で傷痕の癒えない町と人々の様子を撮影し、入賞を果たしました。ニュース性の高い混迷する中東情勢はたしかに多くの作品で見ることができますが、日本もまた世界の一角であり、震災の記憶と爪痕を今も多くのジャーナリストが取材し続けています。

レンズを通して 広い世界で起きている現実を見つめる貴重な機会を、本展は提供します。地球の片隅で生きる人々の声なき声、ニュースでは流れなかった知られざる事実、さまざまな出来事の新たな側面を、**展示作品約160点**から感じてください。

《 9つの部門 》

- 一般ニュース
- スポットニュース
- 現代社会の問題
- 日常生活
- 観察肖像
- 演出肖像
- 自然
- スポーツ・アクション
- スポーツ・フィーチャー

開催概要

■ 展覧会名称 **WORLD PRESS PHOTO 13**
世界報道写真展 2013

■ 会期・会場 2013年 6月 8日(土)－ 8月 4日(日) 東京都写真美術館 (東京)
8月 6日(火)－ 8月15日(木) ハービスHALL (大阪)
9月18日(水)－ 10月13日(日) 立命館大学 国際平和ミュージアム (京都)
10月15日(火)－ 10月31日(木) 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス (滋賀)
11月 3日(日)－ 11月17日(日) 立命館アジア太平洋大学 (大分)

□ 主催 世界報道写真財団、朝日新聞社
阪神電気鉄道 (大阪)
立命館大学国際平和ミュージアム (京都、滋賀、大分)
立命館アジア太平洋大学 (大分)

□ 共催 東京都写真美術館(東京)

□ 後援 オランダ王国大使館、公益社団法人日本写真協会、公益社団法人日本写真家協会

□ 協賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

□ 公式サイトURL <http://www.asahi.com/event/wpph/>

担当者・連絡先
朝日新聞社 企画事業本部 文化事業部 鬼室(きしつ)、齊藤
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03-5540-7450/FAX 03-3546-1894
MAIL kishitsu-r@asahi.com

■「世界報道写真展 2013」広報用にご提供できる写真

⇒ 本プレスリリースに掲載の18点

《ご注意： 写真のご提供とご使用について》

- 「世界報道写真展2013」をご紹介いただける場合、本プレスリリース内に掲載されている写真18点のデータをご提供いたします。
- 写真の掲載にあたっては、展覧会名、会期、会場など写真展の基本情報とともに、**撮影者名、エージェント名、媒体名、キャプション** を明記してください。
- 掲載にあたり、ご希望があれば、読者プレゼント用として写真展の招待券(ペア5組10名)をご提供いたします。
- 写真のトリミング、修正、また写真の上にテキストをかぶせるレイアウトは固く禁じられています。
- 事実関係を確認させていただくため、必ず校了前に校正ゲラを担当者までお送りください。
- 作品の著作権は撮影者に帰属し、法により保護されています。



世界報道写真大賞 2012

ポール・ハンセン(スウェーデン) ダーゲンス・ニューヘテル紙 パレスチナ自治区ガザ(=11月20日)
イスラエルのミサイル攻撃で民家が破壊され、3歳のムハンマド・ヒジャジと2歳の妹スハイブが死亡した。父親のフアードも死亡し、母親は集中治療室に運ばれた。埋葬のため、フアードの兄弟が2人の子どもの遺体を抱きかかえてモスクに向かう。後ろにはフアードの遺体をのせたストレッチャーが続いている。



「スポットニュース」の部 組写真2位

ファビオ・ブキャレリ(イタリア)AFP通信 シリア・アレッポ(=10月10日)

スレマインハラビ地区での政府軍との戦闘で、配置につく自由シリア軍の戦闘員。



「スポットニュース」の部 単写真2位

エミン・オズメン(トルコ) シリア、アレッポ(=7月31日)

反体制派の兵士たちは、政府への情報提供者を捕える夜間作戦を頻繁に実施している。この日は2人が捕まり尋問で有罪を宣告され、夜通し拷問を受けた。兵士たちは疲れると交代しながら休みなく拷問を続ける。2人は48時間後に解放された。



「一般ニュース」の部 単写真1位

ロドリゴ・アブド(アルゼンチン)AP通信 シリア、イディブ(=3月10日)

シリア軍の砲撃で家が破壊され重傷を負ったアイダが涙を流す。夫と2人の子どもたちもこの砲撃で致命傷を負った。



「一般ニュース」の部 組写真3位

ダニエル・ベレフラク(オーストラリア) ゲッティ・イメージズ 岩手県陸前高田市 (=3月7日)

津波で根こそぎにされた松の木の残骸が浜辺に打ち上げられている。東日本大震災の被害が大きかった地域では、なおも数千人が仮設住宅での苦しい生活を続けていた。経済と人々の暮らしを立て直そうとする政府の前に、がれきの撤去という大きな問題が立ちはだかっている。



「現代社会の問題」の部 単写真1位

ミカ・アルバート(アメリカ)リダックスイメーجز ケニヤ、ナイロビ(=4月3日)

30エーカーのゴミ捨て場で廃品回収をしている女性が雨の中でひと休みしている。増え続けるゴミは100万人が生活するスラムの中にまで達している。この女性は見つけた本をもっとゆっくり眺める時間があればいいのにと願っている。工業用部品のカタログでさえお気に入りのひとつだ。「ゴミ拾いに明け暮れる毎日の中で、それ以外のことができる大切な時間」と話す。



「現代社会の問題」の部 組写真1位

マイカ・エラン(ベトナム)モスト ベトナム、ダナン(= 6月22日)「ピンクの選択」

1年前から一緒に暮らしているファン・ティ・トゥイ・ヴィとダン・ティ・ビツ・バイが学校から帰った後にテレビを見ながらくつろいでいる。ベトナムは伝統的に同性愛には不寛容な国で、過去には人権問題で数々の非難を受けてきたが、ここに来て共産党政府が同性婚を認める方針を打ち出している。これが実現すればアジアでは初の国になる。2012年8月にはハノイで初のゲイプライドパレードが実施された。



「日常生活」の部 単写真2位

セーレン・ビストルップ(デンマーク)ベルリンスケ紙 イタリア、イエゾロ(=7月8日)「夏の休日の早朝」
夏のホリデーキャンプ。早朝の風景。



「日常生活」の部 組写真1位

ファウスト・ポダヴィーニ(イタリア) イタリア、ローマ(=6月1日)「ミレッラ」

重い病を患う夫ルイージの介護に生活のすべてを捧げたミレッラ。前向きであろうと努め、夫を励ましながら愛と尊敬の気持ちを忘れることなく接した。健常者なら数分で終わるような日課も認知症を患う人には数時間もかかることがある。71歳のミレッラは生涯に愛したただひとりの人と43年を過ごし、人生の苦勞、笑い、幸せな瞬間のすべてを分かち合ってきたが、6年前に生活が一変した。ミレッラは認知症の夫と暮らし、献身的に介護を続けた。

「観測肖像」の部 単写真3位

イロナ・シュワルツ(ポーランド)リダックスピクチャーズ
アメリカ、マサチューセッツ州ボストン(= 2月19日)
「カイラ」

自分と瓜二つの人形を抱いて祖先の肖像画の前に立つカイラ。「アメリカンガール」は持ち主そっくりにカスタマイズできる人気の人形だ。





「観察肖像」の部 組写真3位

アナンダ・ファン・デル・プリュム(オランダ) オランダ、ティブルフ(= 2月15日)「マルティン」

父親のもとで10年間、その後は保護施設で生活していた18歳のマルティンは、2年前に家に戻り母親と暮らし始めた。荷物は数枚の洋服が入ったバッグだけで仕事も資格もない状態だった。



「演出肖像」の部 組写真1位

ステファン・ヴァンフレーテレン(ベルギー)パノスからマーシーシップス/デ・スタンダード紙 ギニア、コナクリ(= 10月17日)「慈悲ある人々」

甲状腺腫を患う30歳のマコネ・スマオロ。「痛みはないけれど、首がこんなに腫れ上がってしまって心配。腫瘍でなければいいのだけれど。夫と3人の子供たちには私が必要なの」。ギニアは世界でも最も貧しい国のひとつだ。人口の60%は1日1ドル以下で暮らし、75%は読み書きができない。保健医療の水準は低く、大部分の人は治療費を払うこともできない。首都コナクリに停泊する医療船「アフリカン・マーシー」の船上で、NGO団体のマーシーシップスが援助の手を差し伸べ、ボランティアの医師と看護師が白内障、虫歯、皮膚病などの治療にあたっている。整形外科や腫瘍摘出などのむずかしい手術を行うこともある。



「演出肖像」の部 単写真2位

ステフェン・チョウ(マレーシア)スミソニアンマガジン
中国、北京(= 2月6日)「アイ・ウェイウェイ」
中国の現代美術作家、アイ・ウェイウェイ。



「自然」の部 単写真1位

クリスチャン・ツィーグラー(ドイツ) オーストラリア、ブラックマウンテンロード(= 11月16日)「ヒクイドリ」
ブルークアンドンの実を食べる絶滅危惧種のヒクイドリ。大きな種をたくさん遠くまで運ぶことができるヒクイドリはオーストラリア北部の雨林には欠かせない種だ。



「自然」の部 組写真1位

ポール・ニックレン(カナダ)ナショナルジオグラフィック誌 南極、ロス海(=2011年11月18日)「ロス海の皇帝ペンギン」

「泡」を使った驚くほど高度な生理学的メカニズムを発達させてきた皇帝ペンギンは現在、コロニーと生態系を支える海氷の消失という危機に直面している。最近の研究によれば、皇帝ペンギンは羽毛から数百万の泡を放出することで通常の3倍のスピードで泳ぐことができるようになる。泡が羽毛と冷たい海水の間の摩擦を減らすことで水の中での動きが加速され、ヒョウアザラシを避けながら時速30キロで氷の上に飛び乗るのだ。



「スポーツ・アクション」の部 単写真1位

ウェイ・ソン・チェン(マレーシア) インドネシア、西スマトラ島バトゥサンカル(= 2月12日)「水牛レース」
雄牛の胴体に装着したハーネスに足を引っ掛け、尻尾にしがみつくジョッキー。田んぼを駆け抜ける危険なレースを走り抜き、安堵と喜びの表情を見せている。水牛レースは収穫シーズンの終わりに開かれる人気のレースで、各村の代表が真剣な勝負を繰り広げる。

「スポーツ・アクション」の部 組写真2位

セルゲイ・イルニツキー（ロシア） EPA通信

ロンドン（=7月31日）

「金メダルへの一突き——ロンドン・オリンピックのフェンシング」

フェンシング男子フルーレ個人のベスト8進出をかけた対戦で、ドイツのペーター・ヨピヒに攻撃を仕掛けるエジプトのアラエル・ディン・アブエルカセム（上）。選手たちは何年ものトレーニング、数千もの試合、数百の勝利を積み重ねて2012年ロンドン・オリンピックの金メダルを争う試合にたどり着いた。





「スポーツ・フィーチャー」の部 組写真1位

ヤン・グラルupp(デンマーク)ライブ ソマリア、モガディシオ(= 2月21日)「女子バスケットボール」
バスケットボール選手のスウェイズのチームが試合をするときには、ソマリアのバスケットボール連盟が武装警備員を雇って彼女たちを守らせる。戦争で引き裂かれたソマリアの首都モガディシオでは若い女性たちが命がけでバスケットボールをしている。キャプテンで19歳のスウェイズと友人たちは、女性の権利に厳格なイスラム思想に反抗しているため、アルシャバブの民兵やイスラム過激派からだけでなく、メンバーの家族の男性からも殺害の脅迫を受けてきた。「ただダンクシュートを決めたいだけなのに」とスウェイズは言う。コートにいるときが一番幸せな時間だ。「バスケットは嫌なことすべてを忘れさせてくれるから」